

Topicsの詳細や、防災科研の最新ニュース、お知らせ、報道発表は、防災科研Webサイトにてご覧いただけます。 <https://www.bosai.go.jp>



若手発表賞優秀賞を受賞しました

極端気象災害研究領域 雪氷防災研究センターの田村健太特別研究員が、Eighth International Symposium on Arctic Researchにおいて若手発表賞優秀賞を受賞しました。田村健太特別研究員の発表「Contribution of Climate Change to Extreme High Temperature in Northern Japan in March 2023」が優秀であると評価されたものです。Eighth International Symposium on Arctic Researchは、2025年10月28日から31日に、東京都立川市の東京都立多摩産業交流センターにおいて開催されました。

受賞題目

Contribution of Climate Change to Extreme High Temperature in Northern Japan in March 2023

2025年度寒地技術賞 計画部門 ポスター賞を受賞しました

極端気象災害研究領域 雪氷防災研究センターの荒川逸人主任専門研究員、根本征樹副センター長、山口悟上席研究員、中村一樹センター長が2025年度寒地技術賞計画部門ポスター賞を受賞しました。本研究は、自治体が雪氷災害に備えるためのタイムライン作成を支援する実務的資料を体系的に整理した点などが高く評価されました。授賞式は2025年11月19日に札幌コンベンションセンターで開催された第41回寒地技術シンポジウムで行われました。

受賞題目

対象論文：雪氷災害タイムラインのための支援資料の作成

海洋調査技術学会岩宮賞を受賞しました

地震津波火山観測研究センター 日本海溝海底地震津波観測管理室の植平賢司室長が、海洋調査技術学会岩宮賞を受賞しました。この賞は、植平賢司室長が多年にわたり海洋調査技術学会の会員として、海洋調査および技術開発の進歩・普及のために学会活動に多大な尽力をされたとして表彰されたものです。表彰は、2025年11月13日に開催された海洋調査技術学会総会にて行われました。

令和7年度 第2回災害レジリエンス共創研究会

「地震災害に負けない都市と建物を目指して」

～震動台実験と数値シミュレーションによる耐災工学的アプローチ～

2025年11月27日、令和7年度 第2回災害レジリエンス共創研究会を防災科研東京会議室（東京都港区）およびオンラインで開催し、約290名が参加しました。

第1部では、防災科研、不二サッシ株式会社、鹿島建設株式会社が、実大三次元震動破壊実験施設Eーディフェンスを活用した建物のダメージ評価技術や数値シミュレーションの最新動向を紹介し、レジリエントな都市づくりに向けた取り組みを共有しました。

第2部のパネルディスカッションでは、都市空間耐災工学研究領域の中埜良昭研究領域長がモデレーターを務め、産学官連携による技術実装や防災科学技術の発展の方向性について活発な議論が行われました。



会場の様子

雪の講演会「青森県の大雪災害の実態と今後の冬にむけて」

2025年12月1日、「青森県の大雪災害の実態と今後の冬にむけて」と題した講演会を弘前市民文化交流館ホール（青森県弘前市）で開催し、約150名が参加しました。本講演会では、2025年5月30日に締結された「青森県と弘前大学および防災科学技術研究所の包括的連携協力に関する協定」に基づく研究と、東北大学－防災科学技術研究所マッチング研究支援事業採択課題「気候変動による雪の質の変化に関する情報創出と利活用に関する研究」の成果の一部を発表しました。

第1部では、「2024 / 2025年冬の青森県の大雪災害の実態」をテーマに、4名の講演者が調査結果を報告し、大雪災害の実態を振り返りました。

第2部では、「変容する雪氷災害に適応するために」と題したパネルディスカッションを行い、変化する雪氷災害への備えや持続可能な地域づくりについて、科学的データと実践的な視点から活発な議論が行われました。コーディネーターを務めた極端気象災害研究領域 雪氷防災研究センターの中村一樹センター長は、科学的な「見える化」をキーワードに、今後もこのような産官学民の交流・学び合いの場を継続的に設けていきたいと述べました。最後に、弘前大学大学院理工学研究科の金本俊幾研究科長が、今回得られた知見を日々の生活や地域の防災活動に生かしてほしいと閉会のあいさつを述べ、講演会は盛会のうちに幕を閉じました。



会場の様子

第2回JAMSTEC×防災科研 合同シンポジウム「海と陸から火山に迫る」

2025年12月2日、「第2回JAMSTEC×防災科研 合同シンポジウム」がイノホール（東京都千代田区）で開催され、約150名が参加しました。海洋研究開発機構（JAMSTEC）と防災科研は、2024年4月に設置された火山調査研究推進本部（火山本部）において、それぞれ海域と陸域の調査観測の中核を担っています。本シンポジウムでは「海と陸から火山に迫る」をテーマに、両機関が主導する調査観測・研究の取り組みを紹介しました。

基調講演では、火山本部火山調査委員会委員長であり、巨大地変災害研究領域 火山研究推進センターの清水洋センター長が、火山調査研究の歩みと展望について講演しました。その後、両機関の研究者が、海域火山と陸上火山の最新の研究成果を発表しました。

続くパネルディスカッションでは、海上保安庁、東京都、鹿児島市のパネリストを交え、各機関の知見を防災や減災へいかに生かすかについて、多角的な議論が行われました。最後に寶馨理事長が、関係機関との連携を強化し、火山研究の拠点としてさらなる役割の強化に努める意向を述べ、シンポジウムを締めくくりました。



パネルディスカッションの様子

総合検証訓練「SIP防災OKINAWA2025」を実施

2025年12月21日、総合検証訓練「SIP防災OKINAWA2025」を南城市役所公共駐車場等で実施しました。本訓練は、内閣府・戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第3期において研究開発中のシステムについて、研究開発および社会実装に係る検証を目的として行ったものです。株式会社りゅうぎん総合研究所が共催者となり、消防、警察、自衛隊、海上保安庁、医療機関などの地元実動機関の関係者約150人の協力を得て、災害対応の最前線における合同調整を支援するシステムの検証を行いました。研究機関が実動訓練を主催し、また国のプロジェクトと地元シンクタンクが連携して実施した点は、これまでに例を見ない総合検証訓練となりました。



総合検証訓練の様子

第4回高専防災減災コンテスト 最終審査会開催

2026年1月24日、つくば国際会議場（茨城県つくば市）で「第4回高専防災減災コンテスト 最終審査会」を開催しました。本年度は、全国15校・34件の応募から選出された10チームが、地域の防災・減災課題の解決に向けたアイデア検証活動に取り組みました。最終審査会では各チームが活動成果を発表し、最優秀賞にあたる文部科学大臣賞は、沖縄高等専門学校「災害発生時の公衆通信網遮断時でも使用できるスマートフォン～アドフォン～」が受賞しました。また、防災科研賞は、福井工業高等専門学校「災害時孤立地域の自主避難ビニールハウスの謎を解き明かす。そしてその先へ」が受賞しました。地域の防災・減災に資する若い力の可能性を示すコンテストとなりました。



審査発表後の記念撮影

ASEANと防災科学技術協力の進展に向け協議

2026年2月1日から4日、實理事長一行は、インドネシア・ジャカルタを訪問し、ASEAN科学技術イノベーション委員会（ASEAN COSTI）の「防災STIプラットフォーム」を通じた日本との共同研究や人材育成・交流に関し、ASEAN日本政府代表部、ASEAN事務局、ASEAN防災人道支援調整センター、インドネシア国立研究イノベーション庁（BRIN）と協議しました。BRINとは、海底火山調査や地震リスク評価等が共同研究の候補テーマとして挙がり、ASEAN事務局では、若手研究者の能力強化や、防災を社会経済的課題として科学技術で解決する協力枠組みについて意見交換が行われました。



實理事長（左）
サトウインダー・シンASEAN事務局 事務次長（右）

イタリアINGVと覚書を締結

2026年2月12日、防災科研とイタリア国立地球物理学火山学研究所（INGV）は、ローマにあるINGVにて覚書を締結しました。締結式には、實理事長とINGVのフロリンド理事長が出席しました。両機関はこれまで、日伊科学技術協力協定に基づく共同プロジェクトなどを通じて関係を築いてきました。今後は、研究成果や防災研究に関する情報交換、研究者交流、共同プロジェクトを通じ、さらなる協力が進められ、国際社会における防災研究への貢献が期待されます。



實理事長（左）
ファビオ・フロリンド INGV理事長（右）

防災科研 令和8年度一般公開 開催のお知らせ

年に一度の一般公開を2026年4月18日（土）につくば本所で開催します。自然災害を研究する研究者による実験の公開や解説をはじめ、工作や体験型イベントなどを通して、防災を身近に感じながら学べる内容となっています。ご家族連れをはじめ、どなたでもご参加いただけます。（無料）

防災科研の研究や施設の魅力を分かりやすくまとめた紹介動画をリニューアルしました。
ぜひご覧ください。 <https://www.bosai.go.jp/introduction/movie.html>



防災科研ニュース

2026 No.232

2026年3月31日発行

●ご意見・ご感想をお寄せください e-mail : k-news@bosai.go.jp

■発行 国立研究開発法人 防災科学技術研究所

〒305-0006 茨城県つくば市天王台3-1 企画部 広報課

防災科研ニュース係 TEL.029-863-7784 FAX.029-863-7699

●防災科研ニュースはウェブサイトでもご覧いただけます(<https://www.bosai.go.jp/>)

ISSN 2758-1195